

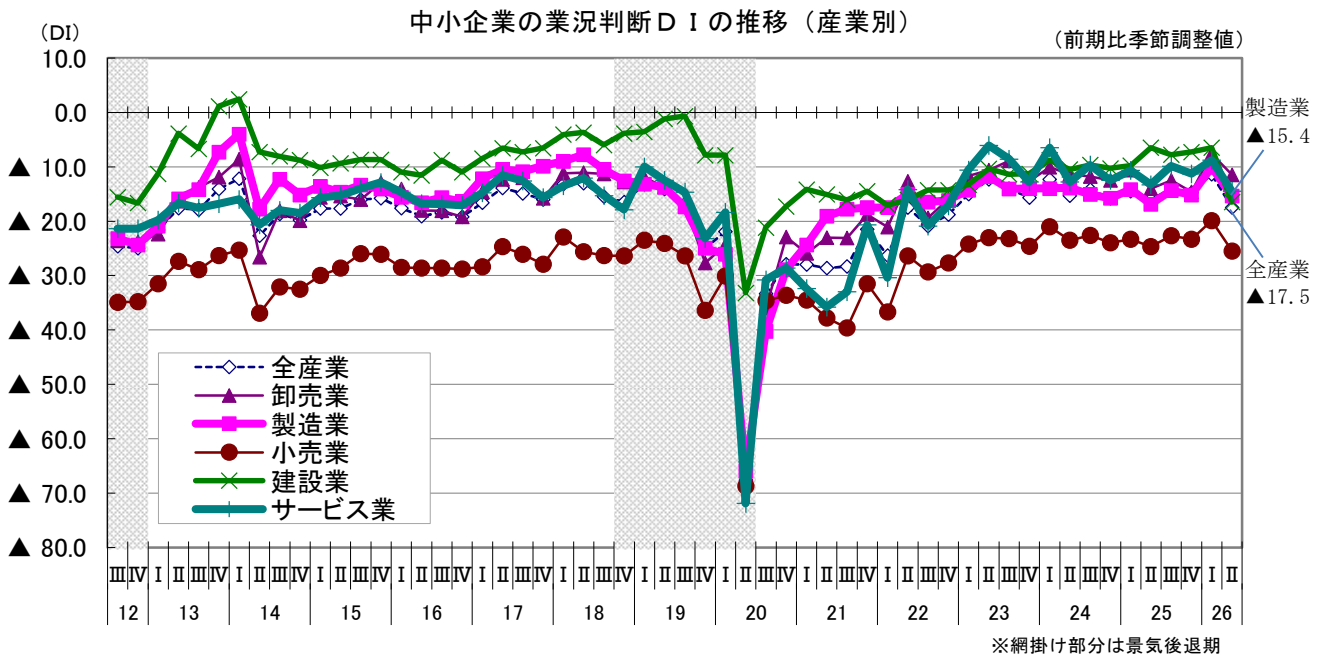
2026年6月  
(前期比季節調整値)

## 第184回 中小企業景況調査報告書 (2026年4-6月期) 〈製造業編〉

※DIとは・・・  
「好転」と回答した企業の割合－「悪化」と回答した企業の割合。DI値がマイナスの場合は、悪化したと回答した企業の数が多いことを示す。

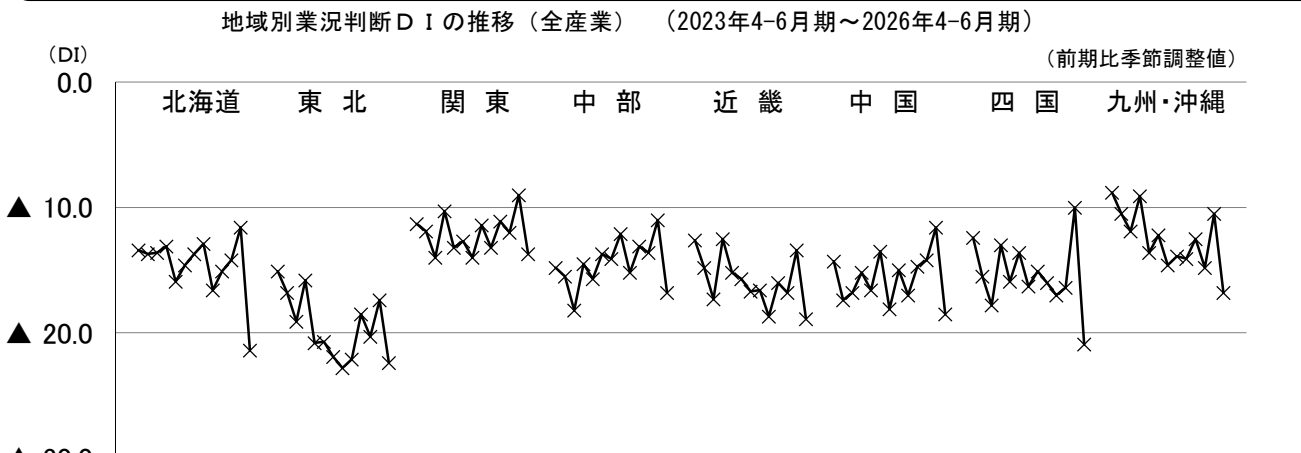
独立行政法人中小企業基盤整備機構 広報・情報戦略統括室 総合情報戦略課  
〒105-8453 東京都港区虎ノ門3-5-1 虎ノ門37森ビル  
E-mail: chosa@smrj.go.jp  
[https://www.smrj.go.jp/research\\_case/survey/index.html](https://www.smrj.go.jp/research_case/survey/index.html)

中小企業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。  
前期と比べた全産業の業況判断DIは、2期ぶりに低下した。(▲11.4→▲17.5)



### 〈地域の業況〉

四国、北海道、中国、九州・沖縄、中部、近畿、東北、関東のすべての地域でマイナス幅が拡大した。



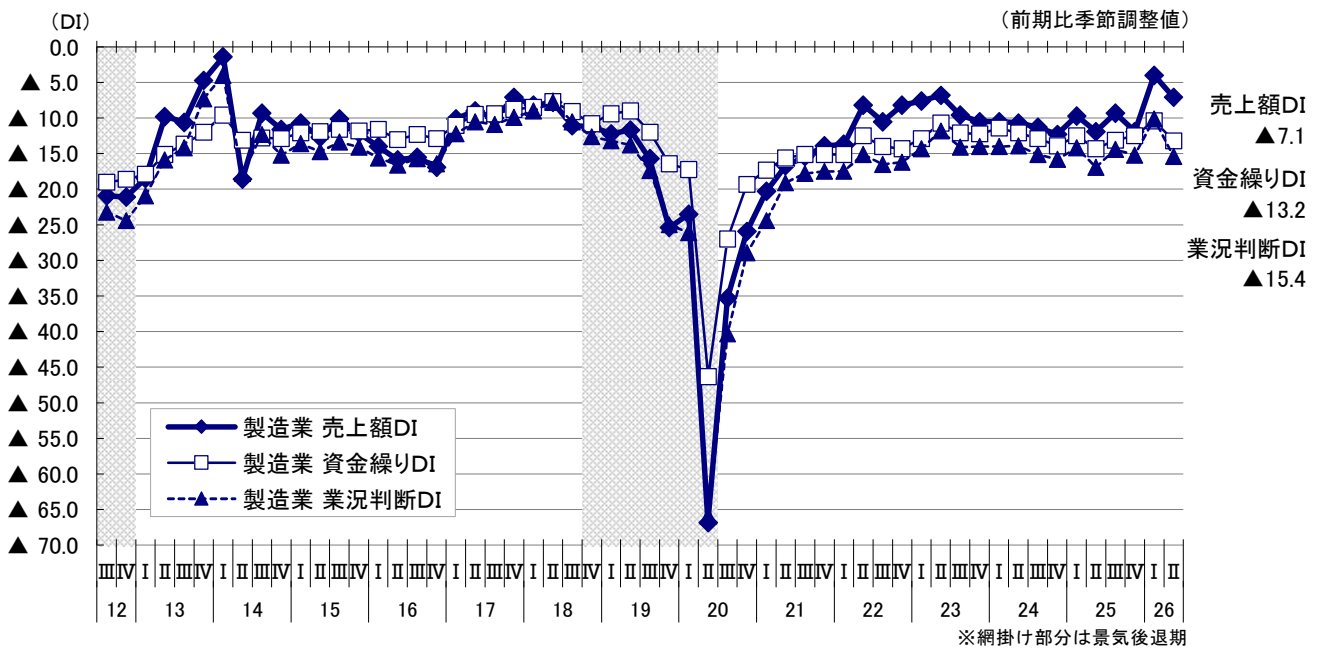
(注)1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。  
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。  
3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合－前期に比べて「悪化した」企業の割合。

# 1. 製造業の動向

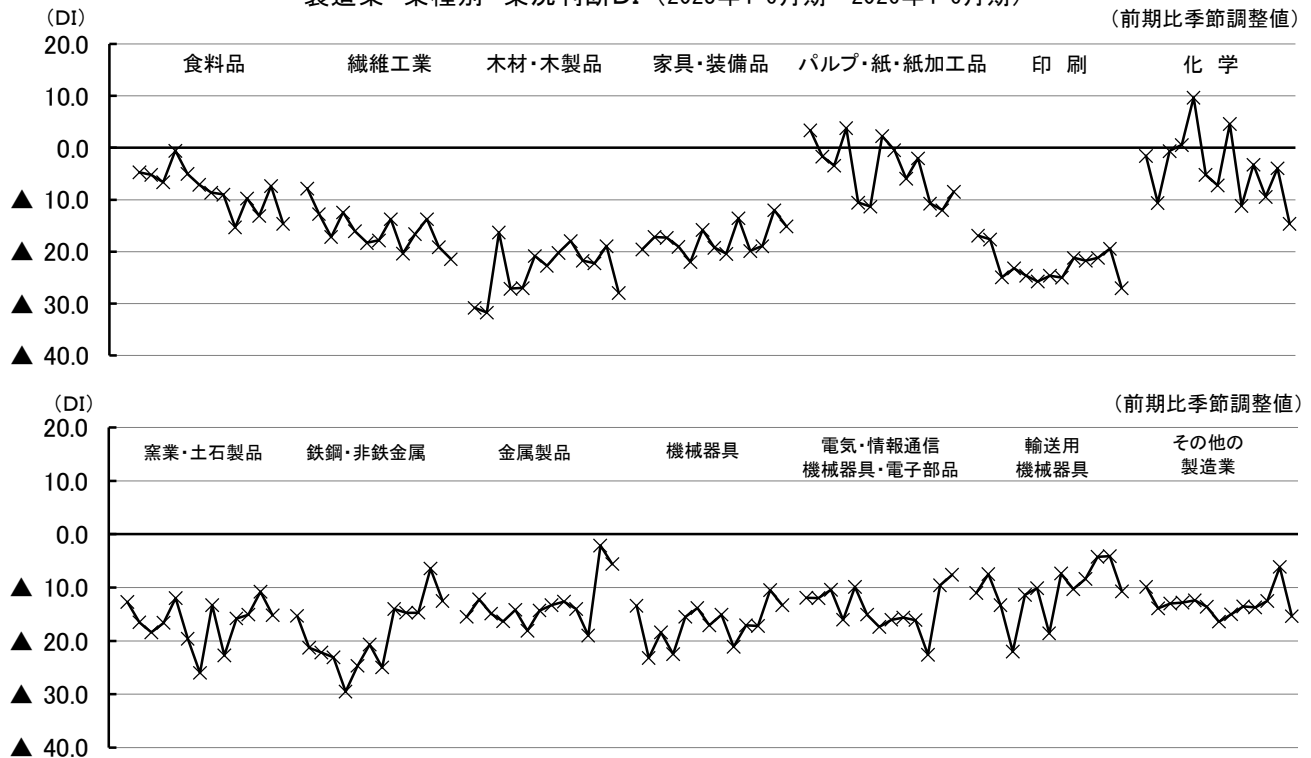
製造業の業況判断DIは、▲15.4（前期▲10.1、前期差5.3ポイント減）と2期ぶりにマイナス幅が拡大した。

売上額DIは、▲7.1（前期▲4.0、前期差3.1ポイント減）と2期ぶりにマイナス幅が拡大した。また、資金繰りDIは、▲13.2（前期▲10.4、前期差2.8ポイント減）と4期ぶりにマイナス幅が拡大した。

業況判断DIを14業種別に見ると、パルプ・紙・紙加工品で▲8.4（前期差3.6ポイント増）、電気・情報通信機械・電子部品で▲7.6（前期差2.0ポイント増）と2業種でマイナス幅が縮小した。一方、化学で▲14.6（前期差10.7ポイント減）、その他の製造業で▲15.4（前期差9.3ポイント減）、木材・木製品で▲27.9（前期差9.0ポイント減）など12業種でマイナス幅が拡大した。



製造業 業種別 業況判断DI (2023年4-6月期~2026年4-6月期)



## 2. 製造業の設備投資動向

設備投資を実施した企業割合は、製造業全体で21.1%（前期差0.5ポイント減）とやや低下した。

（単位：％）

	食料品	繊維工業	木材・木製品	家具・装備品	パルプ・紙・紙加工品	印刷	化学	窯業・土石製品	鉄鋼・非鉄金属	金属製品	機械器具	電気・情報通信・電子部品	輸送用機械器具	その他の製造業	製造業計
2026年4-6月期	21.1	16.6	11.0	17.0	21.2	15.2	29.9	24.7	28.7	23.1	24.7	27.1	29.7	17.8	21.1
2026年1-3月期	22.5	17.4	16.5	11.0	25.0	17.3	25.9	20.8	26.4	25.2	23.3	24.6	34.1	18.2	21.6
2025年10-12月期	21.6	17.5	17.5	14.3	22.9	19.5	32.1	22.8	29.5	24.4	26.2	28.7	38.3	16.3	22.4
2025年7-9月期	22.7	17.5	16.0	13.9	20.3	18.4	33.3	22.1	28.5	22.1	25.7	29.0	31.0	16.8	21.9
2025年4-6月期	21.7	14.9	13.6	9.5	20.9	13.6	31.0	18.3	23.0	23.3	23.5	29.4	28.6	17.9	20.2

## 3. 製造業の経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点としては、前回同様「原材料価格の上昇」が1位、「需要の停滞」が2位、「生産設備の不足・老朽化」が3位となった。

（1位にあげた企業の割合）

	1位	2位	3位	4位	5位
今期 (4-6月期)	原材料価格の上昇 (39.9%)	需要の停滞 (13.1%)	生産設備の不足・老朽化 (8.1%)	従業員の確保難 (7.2%)	原材料の不足 (6.5%)
前期 (1-3月期)	原材料価格の上昇 (27.7%)	需要の停滞 (18.3%)	生産設備の不足・老朽化 (10.0%)	従業員の確保難 (9.9%)	人件費の増加 (8.8%)

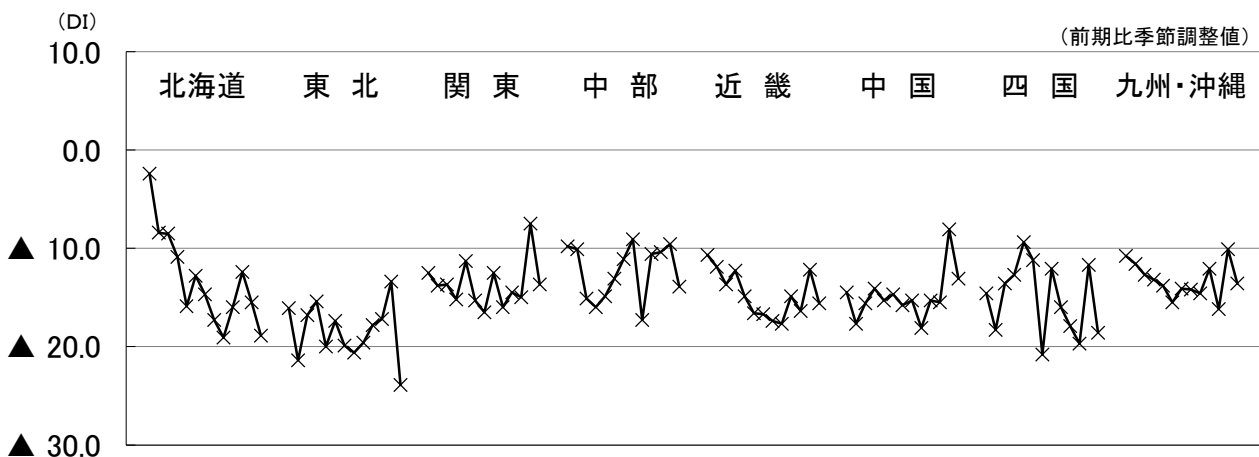
## 4. 製造業の地域別業況判断DI

地域別に見ると、東北、四国、関東、中国、中部、九州・沖縄、北海道、近畿のすべての地域でマイナス幅が拡大した。

中小企業の地域別業況判断DIの推移

製造業

（2023年4-6月期～2026年4-6月期の動き）



（注）1. 地域区分は、各経済産業局管内の都道府県により区分している。

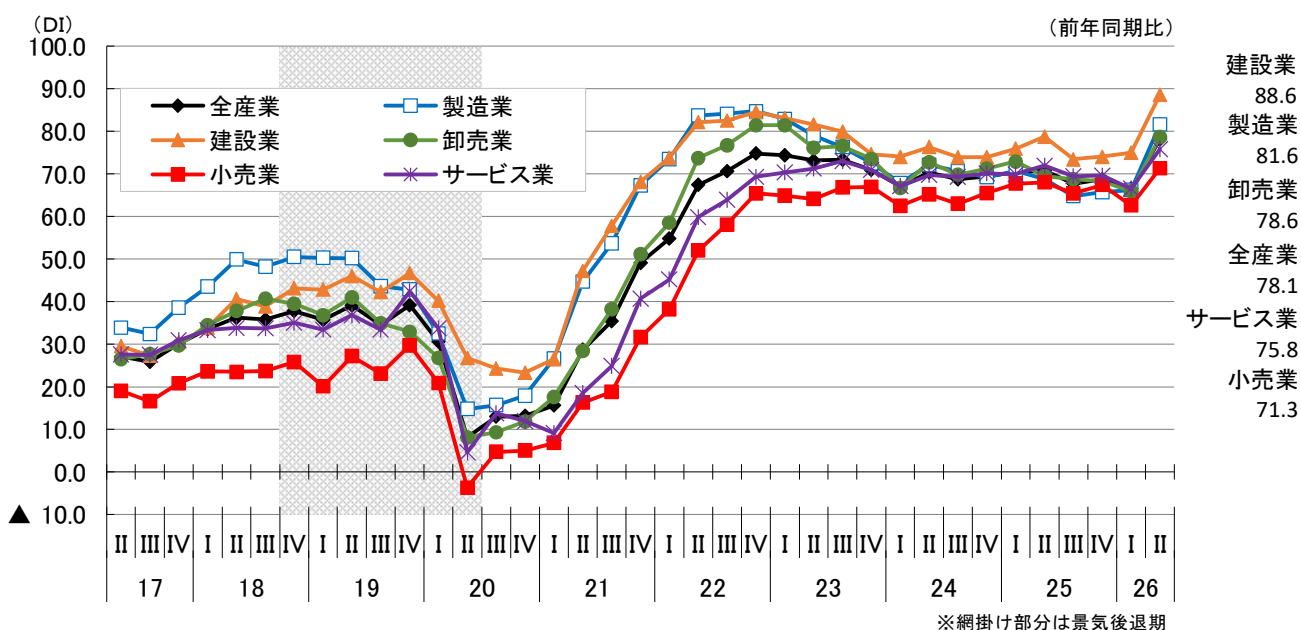
2. 関東には、新潟、長野、山梨、静岡の各県、中部には、石川、富山の各県、近畿には、福井県を含む。九州・沖縄は、九州各県と沖縄県の合計。

3. 業況判断DI=前期に比べて「好転した」企業の割合-前期に比べて「悪化した」企業の割合。

## 5. 製造業の原材料・商品仕入単価D I（前年同期比）の推移について

原材料・商品仕入単価D I（「上昇」－「低下」、前年同期比）は、81.6（前期66.2、前期差15.4ポイント増）と大幅に上昇し、3期連続してプラス幅が拡大した。

産業別原材料・商品仕入単価D Iの推移



### 【調査対象企業のコメント】

- ・ 原材料がナフサ由来のため、価格の急激な高騰と購入に制限がかかった。工場の稼働は原材料の輸入量を見ながら行わざるを得ない。納入先からは資材不足の懸念からか通常より多く注文が入っている。[道南・道央 その他の製造業]
- ・ 原材料の単価が上昇・供給不足で、特に製本に必要な接着剤が入ってこない状況が深刻化している。値上がり前に紙等の在庫を確保したことで、当面の生産は維持出来るものの調達の不安定さやコスト増が業務全体に影響している。[福島 印刷]
- ・ 半導体関連部品を中心に徐々に数量回復傾向にあり。しかし、銅材をはじめレアアース・非鉄金属、石油関連製品の入手難等による納期遅延、購入単価上昇で今後の企業活動に影響を及ぼす可能性大。[山梨 電気・情報通信機械・電子部品]
- ・ 前年度の価格交渉による売上単価上昇が見込まれる一方、値上げ前納入や在庫調整で受注は低調。資材・原料高騰によるコスト増が懸念されるが、サイト短縮により資金繰りは改善している。[富山 化学]
- ・ 客先から半導体関連、船舶関連商品の部品受注が増加したため、自社の売上が増加した。[京都 金属製品]
- ・ イラン情勢の影響により、包材関係の価格が約3割上昇している。価格転嫁を進めているものの、元々比較的単価が高いので、購買の優先順位が下がり、買い控えが生じているように感じる。[島根 食料品]
- ・ 中東情勢の影響等により、材料・刃物・購入部品など全て大幅な値上げがおきており、特に半導体関連部品の短期間での度重なる価格の高騰においては、見積り時との価格差が製品に反映できなくなっている。[徳島 機械器具]
- ・ 引合いは多いが、顧客の希望よりも長い納期を見込まないと生産が追い付かない。これからも原材料費の値上げが予定されており、利益幅が薄くなることが予想される。[沖縄 繊維工業]

### 【調査要領】

- (1) 調査時点：2026年6月1日時点
- (2) 調査方法：原則として、全国の商工会、商工会議所の経営指導員及び中小企業団体中央会の情報連絡員が訪問面接し、聴き取りによって行った。
- (3) 回収状況：中小企業基本法に定義する全国の中小企業で、調査対象数18,834のうち有効回答17,734（有効回答率94.2%）